



Title	モンゴル国のウラン鉱山開発、原発建設、使用済み燃料処分場問題に関する年表
Author(s)	今岡, 良子
Citation	モンゴル研究. 2013, 28, p. 79-88
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102390
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

《年 表》

モンゴル国のウラン鉱山開発、原発建設、使用済み燃料処分場問題に関する年表

今 岡 良 子

この年表は、モンゴルのウラン鉱山開発、原子力発電所建設、核廃棄物処分場問題に関する情報を集めたものです。高レベル核廃棄物は、50年かけて冷やし、ようやく人間が運べる放射線量になると言います。その頃、モンゴルの人たちが使えるように情報を整理していきます。もちろん、こんな情報が増えないこと、こんな情報を使って闘わないでいいことを心から望んでいます。

2013年6月11日版の情報源ですが、日本とモンゴルの外交に関するものは、日本の外務省のホームページ、諸外国とモンゴルの外交に関するものは、Golomt.org のホームページ、ウラン鉱山や原子力発電所に関しては、インターネット上に公開された研究機関や大学、新聞、動画などの資料です。

モンゴル国のウラン鉱山開発、原発建設、使用済み燃料処分場問題に関する年表

年		
		第二次世界大戦後、ソ連主導の地質学調査。高線量地域 1500 地点、ウラン鉱 100 地点発見 http://www.jaif.or.jp/ja/asia/mongol/mongol_data.pdf
1970 年代		ゴルバンボラク、マルダイ（ドルノド県）、ハラート（南ゴビ県）の有益鉱床特定。
1980 年代		ソ連とモンゴルの秘密協定でマルダイ鉱床開発。
		1988 年から 1996 年にかけてウランを産出、チタ州クラスノカメンスクに輸送、プリアルゲンスクの化学工場で精製。
1990	民 主 化	（一党独裁放棄、多党制による議会制民主主義へ）
1991	IMF のショック療法による市場経済への移行	
1994		鉱物資源法（国際資本の投資）
1997		鉱業法（探査、採掘権）
2001		Adams mining 社（豪）がマルダイの探鉱権保有。
		2 月 13 日、エンフバヤル首相、日本訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/yojin/arc_01/mong_gh.html
2006		鉱物資源法改正。戦略的重要鉱床定める。ウランについては 3 つ、いずれもドルノド県のゴルバンボラク、マルダイ、ドルノド鉱床。 3 月 21 日、在日モンゴル大使ジグジッド氏が東京工業大学関本教授を訪問、原子力及び小型原子炉について情報交換。 http://www.crines.titech.ac.jp/projects/indexB.html 3 月 26 日、エンフボルド首相、日本訪問。「日本におけるモンゴル年」「総合的パートナーシップ」構築に向けて。鉱物資源開発。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/yojin/arc_06/mongolia_gh.htm 7 月 2 日、金田勝年外務副大臣、モンゴル訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/fuku/kaneda/cm_06/index.html 8 月 10 日、小泉首相モンゴル訪問。「小泉首相のモンゴル訪問時に、原子力発電分野の人材育成で日本に協力要請があり、研究員や留学生の派遣が始まった。」 http://www.jaif.or.jp/ja/asia/mongol/mongol_data.pdf
2007		モンゴル・アメリカ科学研究センター（以下、「モンアメ」と略す）設立（核開発の拠点） 2 月 26 日、エンフバヤル大統領、日本訪問。安倍首相と「今後 10 年間の日本・モンゴル基本行動計画」について共同発表。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_abe/mongolia_07/gaiyo.html エンバヤル首相、「50 万 kW の小型原発をもちたい。」 http://www.jaif.or.jp/ja/asia/mongol/mongol_data.pdf 4 月 28 日、浅野外務副大臣、モンゴル訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/h19/4/1173156_802.html
2008		マルダイの探鉱権の 7 割を Western Prospector 社、3 割を Adams mining 社が保有。 核燃料サイクルの専門家オンドラーが、オユン外務大臣の相談役に任命され、アメリカより帰国。オユンは「モンアメ」の代表になる 2 月 1 日、国会で「ミレニアム開発目標」を採択。モンゴル人民党政府も、モンゴル民主党政府も、これをウラン鉱山開発、原子力発電所建設の基本路線としている。 3 月 3 日、オユン外務大臣、来日。円借款案件「新ウランバートル国際空港建設計画」に係る交換公文署名式。 4 月 15 日、バヤル首相、ウィーンの IAEA 代表エルバラダイを訪問。 11 月 14 日、エルベグドルジ前首相による西村外務大臣政務官表敬。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/honsho/seimu/nishimura/mongolia_08/gaiyo.html

2008	2008～2021年のモンゴルの総合的な国家開発戦略で、「原子力エネルギーの平和利用開発は、モンゴルの持続的な発展に重要なファクターである」と宣言。2008～2012年の政府の行動計画では、「原子力発電開発の技術と経済性についての総合的な研究と、放射線管理と安全性の強化を実施する。」
	モンゴル政府は4月以降、政府直属の核エネルギー庁に原子力長期計画を移し、人員増加。
	土屋春秋、「モンゴルのウラン鉱床と開発の現状」、「金属資源情報」、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構、P.49-57, 2008.5 http://mric.jogmec.go.jp/public/kogyojoho/2008-05/MRv38n1-05.pdf
	モンゴル・ウラン・イニシアチブの始まり
2009	3月、ROSATOMと核エネルギー協力覚書締結。ウラン鉱床開発と中小型炉建設で合意。
	3月、核エネルギー庁（NEA）の下に国営原子力企業 MONATOMを設立し、ウラン鉱床の探査や採掘のライセンス発給、開発プロジェクトの実施。
	3月12日、バダムダムディンがモンアトム代表に就任。 http://golomt.org/2011/09/06/who/#more-2235
	この頃、モンアトム・ジャパン設立。（大阪市内淡路町2-4-7 植村宏一郎代表）
	4月13日、バトボルド・モンゴル外交・貿易大臣は、中曽根外務大臣と外務省において日本・モンゴル外相会談。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/21/4/1190405_1096.html
	4月23日、IAEAのエルバラダイ事務局長がモンゴル訪問。バイヤル首相、ウラン鉱山開発、核エネルギー利用のための法的枠組み作り、中小型核発電所建設のための環境づくり。2020年をめどに研究炉設置など希望。
	5月13日、プーチン首相、日本に訪問した帰り、モンゴルと「ウラン探査と核エネルギーの利用に関する覚書」署名。 http://golomt.org/2011/09/06/who/#more-2235
	6月18日、エルベグドルジ大統領のモンゴル大統領就任式典への特派大使の派遣。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/21/6/1193215_1100.html
	6月25日、「放射性物質と核エネルギーの開発に関するモンゴルの国家政策」国会で採択。モンゴル人民党政府も、モンゴル民主党政府も、この決議を遵守している。
	6月30日、「核エネルギー法案」国会提出。
	7月16日、バイヤル首相来日。モンゴル・日本「核エネルギー及びウラン資源に関する協力覚書」署名。3年間の期限は2012年で切れている。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/21/7/1193561_1102.html
	7月16日、「核エネルギー法案」を日本から帰国後に可決。 http://golomt.org/2011/09/06/who/#more-2235
	7月22日、政府決議「核エネルギーに関する国家政策実施プログラム」採択。
	8月25日、メドヴェージェフ大統領、モンゴル訪問。合併会社ドルノド・ウラン社設立協定。
	9月13日、エルベグドルジ大統領、インド訪問。インドと「核エネルギー平和利用協力覚書」。
	10月5日、エルベグドルジ大統領、フランスのアレバ社長と会見。
	10月28日、バイヤル首相、健康問題を理由に辞任。
	11月12日、バトボルド新内閣が発足、ザンダンシャタル外交貿易大臣が新入閣。
	12月17日、岡田外務大臣、ザンダンシャタル外務大臣、EPA官民共同研究について一致。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/21/12/1216_03.html
2010	オンドラー、ザンダンシャタル外務大臣の補佐官となる。
	3月8日から15日、ドルリグジャブ・モンゴル国大統領府長官、日本訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/22/3/0305_06.html
	4月13日、バトボルド首相、中国訪問。経済協定について協議。その後、エルベグドルジ大統領が中国訪問。特に鉱山開発に重点化。
	5月31日、中国胡錦濤首相、モンゴル訪問。ウラン開発、核エネルギー部門での共同協議。

2010	5月31日、ASEANにおける核エネルギーの導入に関するワークショップ@マレーシアにおいて「モンゴル核イニシアチブ」について発表。(4) Mongolia's Nuclear Initiative The speaker from Mongolia explained the “Mongolian Nuclear Initiative” exploring ways to use Mongolia's abundant natural resources as latitude for technological advancement. The Initiative, although its details have not yet worked out, includes spent-fuel take-back assurance and “cradle-to-grave” approach. Mongolia, however, may forgo development of nuclear fuel cycle facilities other than in a multilateral context for Mongolia. Regarding bilateral cooperation, he informed that Mongolia concluded Memorandum of Understandings (MOUs) with Japan, Russia, India and France in 2009 and expects to conclude the MOUs with China and ROK in 2010. http://www.n.t.u-tokyo.ac.jp/gcoe/jpn/research/nonproliferation/docs/Summary_Todai-UKM_workshop_31May-1June2010.pdf
	7月、オンドラー、外務省特任大使となる。
	7月22日、岡田外務大臣は、ASEAN 関連外相会議出席のため訪問中のベトナム・ハノイにおいて、ザンダンシャタル・モンゴル外交・貿易大臣との間で日本・モンゴル外相会談を行った。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/g_okada/asean_1007/mongolia_gk.html
	7月29日、岡田外務大臣、ウラン鉱床等の開発に日本企業の参入に強い関心と期待。EPA 交渉の検討。7月29日より8月3日までの間、モンゴル国鉱物資源エネルギー省ゾリクト大臣が訪日し、JOGMEC 及び産業技術総合研究所と「協力関係強化に関する覚書」を締結し、両国共同でレアアースなど鉱物資源ポテンシャル調査を開始した。 http://mric.jogmec.go.jp/public/report/2011-04/mongolia_11.pdf
	8月30日、第3回日中ハイレベル経済対話の開催と岡田外務大臣の中国とモンゴル訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/22/8/0825_04.html http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/g_okada/mon_10/mon_gai.html
	9月22日、米エネルギー副大臣ポネマン、モンゴル訪問。米と核エネルギー協力覚書。ポネマンは核廃棄物処分場問題のキーパーソン。この時、日本の経済産業省役人も訪モ。
	9月24日、ニューヨークで菅首相、バトボルド首相会見。ウランなどの共同開発に日本企業参入期待。EPA について協議。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mongolia/visit/1009_sk.htm
	10月2日、日本、モンゴル首脳と日本企業との懇談会。ウランなどの鉱物資源開発や輸送を含めた関連インフラ整備。伊藤忠商事、住友商事、新日本製鐵、双日、東芝、丸紅、三井物産、三菱商事、石油天然ガス、金属鉱物資源機構などが参加。3日、バトボルド首相、朝青龍の断髪式に参加。
	10月13日、フランス外務大臣アンマリ、モンゴル訪問。「核エネルギー協力覚書」締結。
	11月12日、モンアトム社長バダムダムディン、国会議員アルタンツェツェグ、バトバヤルらアメリカ訪問。エネルギー省副大臣ポネマン、NRC 長らと会見。ウラン採掘、利用、加工、燃料生産にかかわる法などの整備について説明。
	11月15日、エルベグドルジ大統領が日本訪問。新たに「戦略的パートナーシップ」構築に向けた日本・モンゴル共同声明」。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/22/10/1022_02.html ウランなどの資源開発における協力推進を約束。
	11月26日、東芝とモンゴル核燃料サイクルセンター（以下 MNFCC と略す）がウラン濃縮、インフラ整備について将来協力。 社長ダシドルジはオンドラーの夫。
	11月30日、東芝がモンゴル MNFCC 社とウラン・レアアース・レアメタルの資源開発に関し、MOU を締結した。 http://mric.jogmec.go.jp/public/report/2011-04/mongolia_11.pdf
	11月1日、IAEA 日本代表天野とエルベグドルジ大統領会見。
	11月、J. エンフサイハン代表、「原子力発電所の技術については話す前に建設するかどうかを決める必要がある。」'Mining Journal' http://www.mongolianminingjournal.com/content/15485.shtml
2011	1月4日、バトボルド首相、クウェート訪問。アラブ首長国連邦も含めて核エネルギー共同利用について協議。
	1月16日、米モ共同声明。2010年の「核エネルギー共同覚書」の発展。
	1月21日、バドボルド首相、核廃棄物について述べる。
	1月25日、前原外務大臣、モンゴル国会議員と会談。核の平和利用に関して日本の有する技術、優れたマネジメントを紹介。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/23/1/0125_04.html
	2月15日、モンゴル国会議員団と菅首相。ウランなどの鉱物資源開発と EPA 早期交渉開始。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_kan/mongolia_1102.html
	2月16日、バドボルド首相、オーストラリア訪問。

2011	2月24日、中国外務大臣、モンゴル訪問。
	3月2日、東京大学 GCOE、モンゴル訪問。ウラン探鉱以外に、精錬、濃縮、燃料加工事、使用済み燃料中間所蔵業へ参画を望んでいる（原文ママ）。燃料加工は、日本に期待。最近、MNFCC を設置。「モンゴル原子力イニシアチブ」を「モンアメ」が提案。www.n.t.u-tokyo.ac.jp/gcoe/jpn/research/.../docs/visit_mongolia.doc
	3月11日、東北大震災
	3月11日、東京大学 GCOE 京都でシンポジウム「核燃料サイクルの国際化」。モンゴル代表（「モンアメ」若手研究員）、核廃棄物の引き受け条件について言及。モンゴル産のウラン、モンゴルで生産した燃料であること。http://www.n.t.u-tokyo.ac.jp/gcoe/jpn/research/international/docs/summary_international_meeting_kyoto_20110310.pdf
	3月23日、パトボルド首相、韓国訪問。核の平和利用。
	3月30日、アメリカ Global Security Newswire 紙が、米カーネギー国際核エネルギー政策会議でリチャード・ストラトフォードがモンゴルで国際的な核廃棄物処分することについて話があると発言したことなどオバマ政権がモンゴルと国際的な核廃棄物処分場について非公式に協議していることを報道。
	3月31日、モンゴルの反核団体 Anti Nuclear Movement Mongolia のブログがモンゴルの国際的な核廃棄物処分場計画について警鐘を鳴らす。GOLOMT.ORG
	日本外務省ホームページ上に EPA 官民共同報告書が掲載され、そこに Peaceful use of nuclear energy 部門での共同も記載。
	4月4日、ザンダンシャタル外務大臣、アラブ首長国連邦訪問。
	5月6日、毎日新聞のスクープ 、「日米が核処分場極秘計画 モンゴルに建設 原発商戦拡大狙う」（モンゴル政府はゴシップ紙扱い）オンドラーが会川記者に核廃棄物処分場について話す。
	5月10日、ザンダンシャタル外務大臣、在モ日本大使 城所卓推を訪ね、毎日新聞記事について話し合う。
	6月20日、エルベクドルジ大統領、アメリカ訪問。核エネルギー分野での関係強化確認。
	6月20日、原子力国際協力センター、東京工業大学原子炉研究センター小原徹、日本原子力研究開発機構原子力人材育成センター、モンゴル訪問。「モンゴルの原子力人材育成戦略は、現在、モンゴル原子力庁が中心となり、人材育成インフラ開発、人材育成に関する法律・システムの整備、人材育成分野における国家・地域間の協力連携の推進を進めており、体系的な教育研修を推進している。昨今、モンゴルにおいても、福島事故の後、原子力に対するイメージ・世論は低下していることが分かった。加えて、廃棄物処理処分場についての報道にもモンゴル国民はセンシティブに反応しており、イメージ低下に影響しているということが窺われた。しかし、今回お会いした、モンゴル原子力庁やモンゴル国立大学の関係者は、原子力が将来モンゴルにとって不可欠なエネルギーであるという認識のもと、将来の原子力導入に向けて前向きな姿勢であることに変化はなく、原子力人材育成への取り組みも非常に熱心であることが実感された。また、今回の訪問を通じて、原子力人材育成ネットワークのもとに、モンゴル・日本両国の人材育成協力を今後もさらに進めていくことをお互いに確認することができた。」 http://jn-hrd-n.jaea.go.jp/info/pdf/chousa%20h23-1.pdf
	7月1日、共同通信、「モンゴルに核処分場 東芝が米高官に書簡」 「米原子力大手ウェスチングハウス・エレクトリックを子会社に持つ東芝の佐々木則夫社長が5月中旬、米政府高官に書簡を送り、使用済み核燃料などの国際的な貯蔵・処分場をモンゴルに建設する計画を盛り込んだ新構想を推進するよう要請、水面下で対米工作を進めている」ことがわかった。 共同通信は5月12日付米エネルギー省のパネマン副長官宛ての書簡を入手。その書簡は米政府内で回覧されたことを原子力政策に携わる米政府当局者が認めた。書簡は、日米の一部メディアが4～5月にモンゴルでの処分場計画を報じたため「（モンゴルを巻き込んだ）CFS 構想は今や世界的に周知された」と認識しなければならない」と指摘。 「反対も予想されるので、進展継続を確かにするため、関係者がより緊密な調整を図ることが極めて重要。」豊富なウラン資源のあるモンゴルで事業を進める意義にも触れ、関係国の国民が「事業の価値を正しく理解する」ための努力が必要と主張。福島事故で「原子力産業に環境の変化が起きた」としながらも東芝として「CFS への積極的関与の方針に変化はない」と強調。一方、東芝広報室は書簡を送ったことを認め「モンゴルのCFS 構想は、国際的な核不拡散体制の構築、および同国の経済発展に寄与できるという点で意義がある」と述べた。
	7月1日、共同通信、東芝「（モンゴルのCFS 構想は）世界に価値ある構想」と表明。

2011	7月1日、共同通信、勝田忠弘明治大学教授、「モンゴルで処分場を建設する技術的妥当性や優位性は見当たらない」「原発利用の「負」の部分の途上国に押しつけることで、日米はさらに気兼ねなく国内外で原発を推進することが可能になる。増え続ける使用済み燃料を減らそうとする意識も下がり、処分問題の根本解決にもならない。」 7月18日、共同通信、「(包括的燃料サービス構想に向けた日米モ政府の合意文書の原案に) モンゴルに貯蔵施設と明記 使用済み核燃料処分」 共同通信が入手した合意文書原案(英文)は、地球温暖化防止やエネルギー安全保障、経済発展の観点から原子力利用拡大に支持を表明。原発導入国に燃料供給を保証し、使用済み燃料の問題にも対処できる「核燃料サイクルの多国間アプローチ」が重要だとしている。また、2月作成の経産省資源エネルギー庁の内部文書は、モンゴルを舞台にしたCFS構想を、同省と東芝、米エネルギー省、モンゴル政府が「水面下で検討中」だと説明。モンゴル産ウランを加工した核燃料を新規原発導入国に供給し、使用済み燃料をモンゴルが引き取る計画の概要を示した上で、新規導入国のアラブ首長国連邦(UAE)とモンゴルが接触を開始したと記している。 7月18日、共同通信、「合意文書原案の要旨」 「包括的燃料サービス(CFS)をめぐる日米、モンゴル3カ国政府の合意文書原案の要旨は次の通り。 一、気候変動やエネルギー安全保障、経済発展の試練に立ち向かうため地球規模での原子力の平和利用拡大を支持する。 一、2010年の核拡散防止条約(NPT)再検討会議が、核燃料サイクルの多国間アプローチを発展させる重要性を認めたことに留意する。 一、CFSが市場に行き渡ること、原子力利用の拡大が可能になる。 一、商業ベースのCFS確立を促すため定期協議し、活動を調整する。 一、CFS構想に対して起こり得る世論の反応について検討する。 一、モンゴルでの使用済み燃料貯蔵施設の造成をめぐり、モンゴルに技術協力する可能性を国際原子力機関(IAEA)と協議する。 一、(米国が推進する)原子力損害補完的補償条約(CSC)に基づき、原子力賠償の国際的枠組みを構築し、CFSに加わる可能性のある国に参加を促す。」 7月19日、伴野副大臣とバートルガ・モンゴル道路・運輸・建設・都市計画大臣との会談。http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/23/7/0719_04.html 7月23日、インドネシア訪問時、松本外務大臣とザندانシャタル外務大臣会談。服部議員が7月27日の外務委員会で質問したところ、松本外相は「モンゴル側からは、国内法令の関係上、核廃棄物の国内の受け入れ、つまり外国から自国への受け入れは困難であるとの立場の表明があったと記憶している」と回答。 7月26日、「核廃棄物1キロ埋蔵すると500ドル」という記事。http://id.news.mn/content/75313.shtml 7月27日、共同通信、「核燃料の持ち込み困難 モンゴルが外相に伝達」 松本氏は外務委で、モンゴルのザندانシャタル外相と23日に会談した際に「国内の法令上、外国の使用済み核燃料を引き取り埋設処理するのは困難だ」との説明を受けたと指摘。モンゴルの反応については「どの国にとっても、他国の使用済み核燃料を引き取るのは簡単なことではない」と述べた。構想の進展状況に関しては日本、米国、モンゴルの間で非公式に意見交換する段階にとどまっていると説明した。 9月1日、核エネルギー庁長官エンフバットが核廃棄物処分場問題について非公式の協議が行なわれたことを証言し、急病で倒れる。 同日、バトbold首相がツイッターなどを使って、「外国の核廃棄物の受け入れはしない」と明言。 9月22日、エルベクドルジ大統領が国連総会で、「モンゴルに核廃棄物を搬入させてはならない」と演説。 同日、IAEA総会でエンフサイハン代表、モンゴル政府の考えを発表。It is well aware that exploitation of uranium would pose a number of challenges including ensuring physical security of nuclear material at all stages of nuclear fuel cycle, including waste disposal. 9月16日、外務省特任大使オンドラー解任。核廃棄物処分場問題に幕を引く。 10月3日、IAEA国際会議、鉱山エネルギー省と核エネルギー庁が出席し、「我々が、なぜ、原発を必要とするのか」を発表。 南ゴビ県のタワントルゴイ石炭やオユトルゴイ銅鉱山の開発のために電力が不足するという理由。しかし、石炭の火力発電所を建設予定。 東大久野特任教授、NPO法人MonAme主催「北東アジアにおける原子力の展望」シンポジウム。モンゴル「会議から得られた印象 参加した有識者間の議論から、今後の対モンゴル政策としては、ウラン資源採鉱・精錬事業を自らが実施できるように支援すること、長期計画を考え、そのための人材育成に協力すること、研究原子炉の導入により、原子力研究教育レベルを向上させることであると思われる。モンゴルはMNAに興味をもっているが、モンゴル産のウランを調達できるような素地ができて初めて、廃棄物貯蔵というバックエンドのMNA議論が可能となるものと思われる。」 参加報告 http://www.n.t.u-tokyo.ac.jp/gcoe/jpn/research/nonproliferation/docs/Nonproliferation_Mongolia_2011.pdf 10月26日、モンゴル国家大会議議員団、日本訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/others/mongolia_1110.html
------	---

2011		12月13日、デンベレル国会議長、玄葉外務大臣を訪問。これ以降、外務省ホームページにはウランという言葉が掲載されなくなる。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/23/12/1213_05.html
		12月27日、原産協会「モンゴルの原子力発電導入準備とウラン鉱業」発表。 http://www.jaif.or.jp/ja/asia/mongol/mongol_data.pdf
2012		1月9日、齋藤内閣官房副長官のモンゴル訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/others/mongolia_1201_2.html
		3月、バトbold首相、来日前、共同新聞のインタビューに、モンゴル最初の原発は日本製のものを建てること、ウランの輸出について意欲をみせる。 -ULAN BATBOR (Kyodo) - Mongolian Prime Minister Sukhbaataryn Batbold has called for boosting economic cooperation with Japan in the areas of nuclear energy and development of natural resources such as rare earth minerals. - (Mainichi Japan) February 21, 2012 In a recent interview with Kyodo News, Batbold said he plans to visit Japan in March and expressed eagerness to forge cooperation with Japan as Mongolia, which also has rich uranium reserves, plans to build its first nuclear power plant."Japan possesses high technology in the peaceful use of nuclear power and has lessons from Fukushima," he said, referring to Japan's recovery from a deadly accident at the Fukushima Daiichi nuclear power plant in the wake of a massive earthquake and tsunami in March last year
		3月11日、東日本大震災追悼集会。
		3月11日、バトbold首相、追悼集会参加。
		3月12日、バトbold首相、野田首相、EPA 交渉開始。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_noda/pdfs/1203_mongolia_03.pdf 日本国政府とモンゴル国政府との共同新聞発表 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/s_noda/pdfs/1203_mongolia_01.pdf ウランも、原発も言及なし。「日・モンゴル経済連携協定（EPA）のための交渉開始に関する共同発表」「モンゴル国に対する円借款及び無償資金協力に関する交換公文への署名」 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/24/3/0312_08.html バトbold首相は日本で何を締結したか、国民に充分説明しないと国民は不満。
		4月26日、ウランバートルで「チェルノブイリを忘れるな」デモ。
		5月18日、バトbold首相、各部局から提出されたモンゴル政府投資計画予算案を承認。反核運動家たちがモンゴル政府のウェブサイトにはリンクされた「案」を見つけ、議論不十分なまま予算案を通過させたと怒りの記者会見を開く。 「案」には、「マルダイ、ダランジャルガラン、アルダルトルゴイに放射性廃棄物保管、加工、埋蔵施設建設」と書かれていた。
		7月5日、国家発展改革委員会がホームページで予算通過した政府投資計画書を公開。7月5日の「ウヌドゥル」紙で反核運動家の誤解を印象づける。 通過した予算には、「マルダイ、ダランジャルガランに放射性測定施設建設、放射化学実験所建設」と書かれていた。
		この頃から「モンアメ」、核エネルギーの平和利用に関するリーフレットを複数発行。
		この頃から、モンアトム社、ホームページに冷蔵庫サイズの小型原子炉の写真を掲載。
		8月13日、今岡良子とモンゴルの反核運動家レンスキー（元放射線管理従事者）が、マルダイ旧ウラン鉱山訪問。ウランのばた山で5.8 μ Sv/h を測定。
		9月3日、エルベクドルジ大統領、イラクを訪問し、外国人首脳として初めて、核濃縮施設を見学。モンゴルでのウラン濃縮に意欲。
		9月4日、在モンゴル北朝鮮大使が、モンゴル国会議長を訪問。今年末、北朝鮮の国会議長がモンゴル訪問予定。その時に、モンゴルがラジン港を使って海の出口をもつことについて協議する予定。
		9月5日、「ウドウリン・ソニン」紙、今岡が書いたマルダイ訪問記を掲載。話題になる。「ナショナルポスト」紙もマルダイについて取材。
		9月10日から14日、北大奈良林教授、東工大尾原教授ら「核発電所の設置、運転、整備をテーマとする技術者のための特別研修」於モンゴル国立大学。
		9月17日から核物理学の応用 国際学術会議（「モンアメ」主催）。
		9月19日 IAEA 総会でエンフサイハン代表出席 "Mongolia is well aware that exploitation of uranium would pose a number of challenges, including ensuring physical security of nuclear material at all stages of nuclear fuel cycle." 昨年は、この文末に including nuclear waste と書いていたが、今年は、ここだけ削除されていた。
		9月25日、野田首相、エルベクドルジ大統領とニューヨークで日モ首脳会談。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/mongolia/visit/1209_sk.html
		9月26日、ドルノド県の実地調査官、今岡が宿泊した民家を調査。

2012	10月1日、国会議員3人、ガンバートル（元全労組委員長）、バットエルデネ（元横綱）、ボロルチョローン（元ドルノド小麦社社長）が、反原発の立場を明らかにし、2013年予算案からウラン関連項目を削除させたことを記者会見で報告。
	10月2日、ボルド外務大臣、来日。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/24/10/1002_04.html
	10月8日、核エネルギー庁プレブスレン「マルダイ周辺の放射線量は許された水準を越えていない」とレンスキーの測定値を否定。
	11月15日、フリージャーナリスト西谷文和、マルダイに向かう。ウラン鉱のぼた山で24 μ Sv/hを測定。
	11月16日、杉山アジア大洋州局長、モンゴル訪問。
	11月28日～1月31日にかけて、ドルノゴビ県ウランバドラフ郡の2才牛、合計19頭、突然死する。反核運動家が記者会見、調査を始める。ここはアレバ系のコジェゴビ社がインシチュリーチング法でウランを試験採掘している地域。
	11月28日、アリオンボルドとテグスバヤル核エネルギー庁長官の論争。 http://golomt.org/2012/11/28/tegshbayar/
	12月3日、核エネルギー庁テグスバヤル長官が「イエローケーキはまったく無害」、モンゴル国立大学ダワー教授は「原発は必然。事故は1000年に一度」と、テレビで頻繁に宣伝することに対して、反核団体が反発。
	12月6日、樺葉賀津也外務副大臣がアイルランドでの欧州安全保障協力機構（O S C E）外相理事会の機会にボルド・モンゴル外務大臣と会談。
	12月7日、反ウラン探査・反ウラン採掘を表明するモンゴル国会議員の有志の会発足。バットザンダン、バーケイ、ボロルチョローン、ビャンバツオクト、ガンバートル、オユンゲレル文化・スポーツ・観光大臣
	12月13日、「原子力発電所はモンゴルに必要か」 MNC TV 番組 - http://www.youtube.com/watch?v=rrIIK8ukPGE
2013	1月5日、今岡良子と西谷文和、モンアトムジャパン社訪問、営業活動を継続していることを確認。
	1月10日、核エネルギー庁長官N. テグスバヤルが「ウランは無害」と発言。
	1月10日、西谷文和が、モンアトムジャパン社長植村にインタビュー。
	1月23日、「核エネルギー庁からのお知らせ」 http://mining.time.mn/content/24232.shtml
	ドルノド県ダシバルバル郡（マルダイ村のある）のシンシン社とフンブー社に関し、核エネルギー庁から国民一般に情報開示。現在、モンゴル国内ではウランの採鉱、加工は行っていない。この2つの鉱山は混合鉱山なので、黒鉛と亜鉛を採鉱し、加工していることを明らかにした。
	2月14日、ドルノゴビ県ウランバドラフ郡の地下水から通常以上のセレンが検出された、とTV9が報道。 https://www.youtube.com/watch?v=k46XcMrfe24
	2月17日、N. テグスバヤル核エネルギー庁長官、ブルームバーグTVに出演。 http://www.youtube.com/watch?v=SW93ZFjGkYE
	3月3日、N. テグスバヤルのインタビュー「イエローケーキは危険がないの？」 http://www.youtube.com/watch?v=eF1Ft1DZgwc&feature=youtu.be 「去年、アレバはイエローケーキを取った後の廃棄物を自分で保管している。」「イエローケーキを作っても、国際基準を守っていれば、安全」
	3月4日、アリオンボルド、氏名と顔を公表し、NGO ゴロムト Tsekh の代表になる。'Niigmiin toli' ,2013.04.01.
	3月6日、ECO TV 3月9日の運動についてミンジュール、アリオンボルド、ツァーガンハス代表エルデネザヤ出演。
	3月11日、ドルノゴビ県ウランバドラフ群の家畜死亡問題について、家畜医療繁殖所は、放射性物質と重金属が原因と発表。
	3月11日、「福島を忘れるな」「核なきモンゴル」デモ。ドルノゴビ県ウランバドラフ郡の遊牧民も合流。
	3月12日、アルタンホイグ首相、ドルノゴビ県を訪問し、遊牧民ノルスレンと郡長エルデネチメグと会見。ドルノゴビ県でウランを掘ったために家畜が死んだ」MNCTV http://www.youtube.com/watch?v=lWaZwKtUTXQ
	3月12日、Ch. ムンフバヤル、「原子力発電所は国に損害を与える設備」
	3月25日、ウネン紙がドルノゴビ県ウランバドラフ郡を取材。
	3月25日、ウヌードゥル紙記事、「コジェゴビ社はまったく罪がないのか？」 http://www.mongolnews.mn/i/41121

2013	3月26日、モンゴル国営TVのニュース、「ウランの鉱毒が始まっていることを核エネルギー庁は理解しようとしないうまま・・・」 http://www.youtube.com/watch?v=Wd-w9KA8G0M
	3月27日、24時間 インターネット新聞、D. ガンボルド「オランバドラフ郡の鉱毒被害を誰が救うのか」 http://www.24tsag.mn/content/29252.shtml
	3月30日、ドルノゴビ県サインシャンド郡で遊牧民、市民、県都の若者たちが、「反ウラン運動」という組織の最初の会合。住民2200人が、ドルノゴビ県からアレバを撤退させる意志を表明したことを反核運動家が明らかにした。
	3月31日、安倍首相、モンゴル訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/page11_000001.html 「エルチ・イニシアチブ」発表。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/files/000002634.pdf
	4月1日、ノーカーデイ、於ウランバートル アリオンボルド、No Nukes 宣伝。
	4月2日、アルタンホイク首相、アレバ系コジェゴビが汚染した地に調査隊を派遣。 http://chuhal.mn/r/22049
	4月2日、ウネン紙、「奇形仔畜を首相チームは無視」 http://sonin.mn/news/politics-economy/14704
	4月3日、ドルノゴビ県牧民D. ノルスレン（奇形仔畜を首相の調査チームが調査しなかったことに抗議）「コジェゴビ社長とともに死んだ子牛を集めて、ゴミのように地面に埋めた。」 http://niigem.zaluu.com/index_med.php?id=294
	4月4日、アレバグループを批判する記事。 http://www.sonin.mn/news/gemt-hereg/14820
	4月4日、ザロー インターネット新聞、「恥ぬ目、モンゴルに瞬き」アレバについて http://niigem.zaluu.com/index_med.php?id=308
	4月9日、ウヌードウル紙、「誰の利益を守り、検査結果を隠しているのか？」Kh.Erdeneburgan ドルノゴビ在住ウヌードル記者 http://www.mongolnews.mn/i/41121
	4月10日、ウネン紙、「『コジェゴビ』の指導者はウランの放射能を30ではなく、2倍多く出していた。」 http://www.unen.mn/content/21032.shtml?alias=mining
	4月15日、家畜繁殖研究所の検査結果。 http://golomt.org/2013/04/15/malemn/
	4月17日、ザロー インターネット新聞、「ドルノゴビ県の遊牧民の子牛22頭がウランで死んだのかどうか、来週決着。」 http://niigem.zaluu.com/index_med.php?id=482#respond
	4月25日、ゴーゴー インターネット新聞、「モンゴル国立大学教授G. フーフンフー『モンゴルにおける核関連施設の誕生、発展、将来の方向について』」 http://news.gogo.mn/r/121791
	4月27日、ウランバートルで民主主義共同体閣僚級会合の会議開催。鈴木俊一外務副大臣が出席。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/page3_000119.html
	5月1日、アルタンホイク首相、ドルノゴビ県ウランバドラフ郡の問題について「放射性物質や重金属が原因でない」と中間報告。 http://www.youtube.com/watch?v=f2g280PEfPA
	5月1日、アリオンボルド代表、人気インタビュー番組 De Fact に出演。 http://www.youtube.com/watch?v=7V7rHf26r84&list=UU2JEDwfHWtZlcwRXIGa6NCA&index=1
	5月1日、アルタンホイク首相、オランバドラフ鉱毒事件の結果を報告。 https://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=f2g280PEfPA
	5月3日、スフバートル県を拠点とする反核NGO バヤンシャルガのプロダ、「『イエローケーキ』を掘り出す時、化学物質と放射性物質の二重の被害を自然環境と家畜と人間に与える可能性がある。」 http://www.bayansharga.mn/?p=888
	5月6日～8日、ウラン鉱採掘と加工、核廃棄物の監査についてのセミナー 於核エネルギー庁 講師はアメリカ人。
	5月8日、「ドルノゴビ、牧民ノルスレンの証言」 https://soundcloud.com/minjuur-tudevjaviiin/2013-05-08
	5月13日、5つのNGOによるウランバドラフ郡、現地調査のまとめ。 http://www.youtube.com/watch?v=bO_7NKNJKgY
	5月13日、「ドルノド県オランバドラフ郡アルガラント区の人びとは、ウランの採掘に反対している。」 http://www.youtube.com/watch?v=ogh9TM1JZUc&feature=endscreen
	5月13日、NGOがオランバドラフの調査報告記者会見。 https://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=fadIEeDpvvA http://www.youtube.com/watch?v=iHVv1qkuFkc

2013	5月17日、ウネン紙「アリオンボルド：コジェゴビの事業のせいで家畜が死んだことが判明したら政府は責任をとる、と言った。」 https://www.facebook.com/photo.php?fbid=668585259822562&set=a.442251302455960.122951.263100847037674&type=1&theater
	5月17日、モンゴリン・メデー紙「アリオンボルド：遊牧民は財産と健康と精神的な被害を受けている。」 http://www.mminfo.mn/content/44448.shtml?alias=interview
	5月19日、オランバドラフ郡ノルスレンの死亡した家畜の写真を Golomt 反核運動 が facebook で公表。 https://www.facebook.com/media/set/?set=a.668061373208284.1073741831.263100847037674&type=1
	5月19日、オランバドラフ郡アルガラントの牧民から提供された家畜の被害写真がネット上に公開された。 https://www.facebook.com/photo.php?v=662634647095490
	5月23日、メデー インターネット新聞「Ts. ムンフバヤル：長い名前の法律を守らなければ、また闘うことになる。」 http://www.medee.mn/main.php?eid=31399
	5月26日、24時間 インターネット新聞「Ch. ムンフバヤル：コジェゴビ社に罪がないだと？」 http://www.24tsag.mn/content/32982.shtml
	5月28日、オランバドラフ郡遊牧民パンサルマー記者会見。 http://www.youtube.com/watch?v=TIAMD4l2id0&feature=youtu.be
	5月28日、チャンネル MN2 のニュースでオランバドラフ郡の遊牧民の記者会見を放送。 http://www.youtube.com/watch?v=WxhTwMmXM8A&feature=youtu.be
	5月28日、チャンネル9のニュースでオランバドラフ郡の遊牧民の記者会見を放送。 http://www.youtube.com/watch?v=r0MHA_g_B2vE&feature=youtu.be
	5月28日、NGO の調査のまとめ「オランバドラフ郡の真実」C1 TV http://www.youtube.com/watch?v=-KbzfCiacT4&feature=youtu.be
	記者会見で公開された異常出産の家畜の写真が、facebook にアップされ、公開された。 https://www.facebook.com/media/set/?set=a.522219607837572.1073741825.139421219450748&type=1
	5月31日、M ニュース インターネット新聞、「オランバドラフ郡の家畜はセレンと銅の鉱毒だと首相は説明した。」 http://mnews.mn/news/1/single/8920
	6月2日、アラブト インターネット新聞、「牧民、D. ガントゥムル：大統領に 1500 筆の署名を渡した。」 http://www.aravt.mn/content/2994/.htm
	6月6日、反核 NGO ゴロムトのブログ、「オランバドラフの人々のいるところで実験をしているのか？」 http://golomt.org/2013/06/06/5365/
	6月11日、ボルド外務大臣、岸田外務大臣を訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press6_000329.html 安倍首相を訪問。 http://www.mofa.go.jp/mofaj/kaidan/page6_000115.html